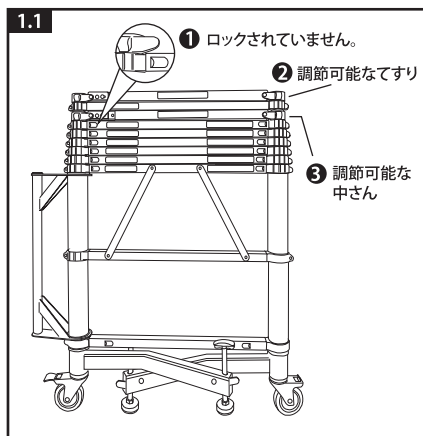
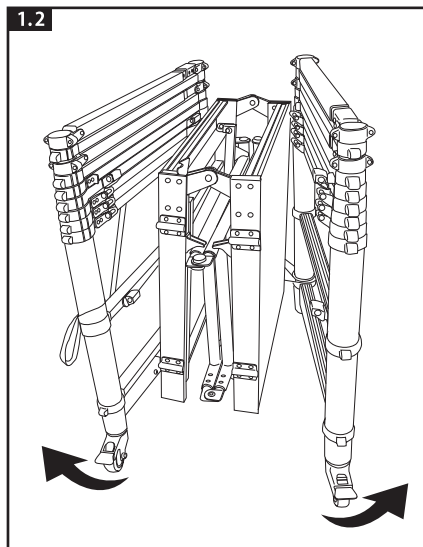


1,組立

図1.1のように本体にキャスターが装着され、完全に折りたたまれた状態から、次の手順に従って組立ててください。



- 1、キャスターのロックを解除してください。
(車輪が自由に回転します。)
- 2、2本の収納ベルトのロックを外します。
- 3、ゲート(後ろ側)の黄色い枠を維持しながら、図1.2のように前面側からサイドフレームを左右に広げてください。



4、折りたたまれて収納されている開閉式作業床を本体から取り出してください。

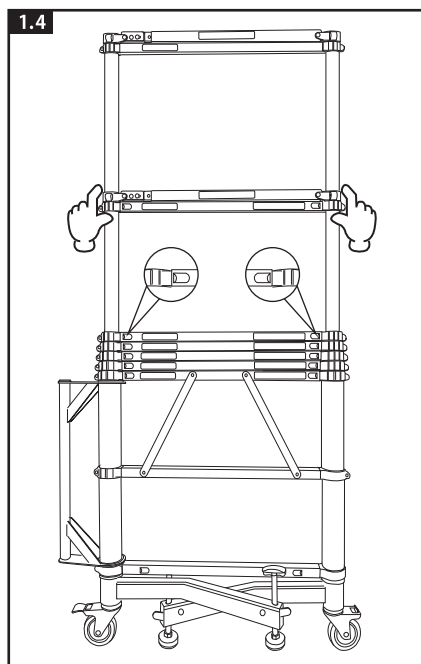
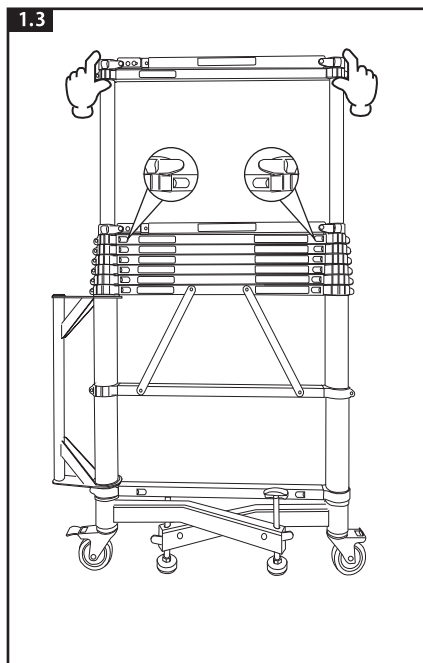
5、サイドフレームを平行になるように開くと、ゲートがまっすぐになりクリック音がしてゲートロックボタンがロックされます。ゲートが確実にロックされていることを確認してください。

6、ゲートに対してそれぞれのサイドフレームを90度にセッティングした後、四カ所のキャスターをロックします。

1,組立

横手すり1・2の組立

1. 踏ざん9に片足を置き、横手すり1の両端を持ち、所定の位置にロックされるまで横手すり1を持ち上げます。ロックするとクリック音が聞こえます。音が聞こえたら、横手すり2の伸縮ロック(黄)は、自動的にロック位置(外側方向)に移動しています。(図1.3を参照)
2. 踏ざん9に片足を置き、横手すり2の両端を持ち、所定の位置にロックされるまで横手すり2を持ち上げます。ロックするとクリック音が聞こえます。音が聞こえたら、踏ざん3の伸縮ロック(黄)は自動的にロック位置(外側方向)に移動しています。(図1.4を参照)
3. 反対側のサイドフレームでも、上記1及び2の手順を繰り返してください。



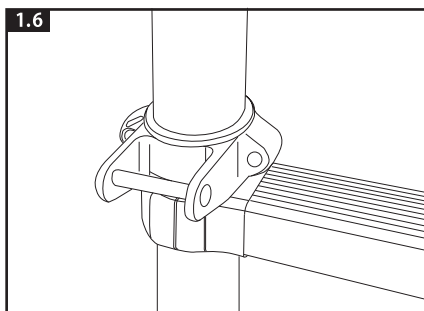
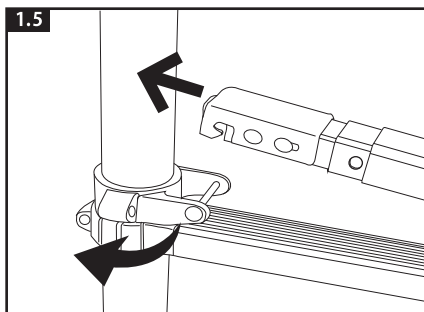
⚠ 注意。

左右のサイドフレームで、手すり(伸縮、可動)の下部には横手すり(固定)があり、中さん(伸縮、可動)の下部には横中さん(固定)があります。必ずペアになっています。

1,組立

手すりの取付

- 1、手すりのロック金具(黄色いカバー)をつまむように持ち、手すりの端に向けてロック金具を押し込みながら上へ持ち上げ、回転アンカーから外してください。(図1.5を参照)
- 2、回転アンカーを枠の内側の方向へ90度回転させてください。(図1.6を参照)

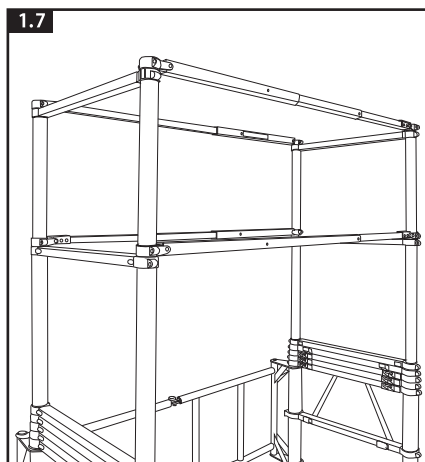


- 3、手順1で回転アンカーから外した手すりを反対側のフレームに向かって回転させます。
- 4、2回クリック音がするまで手すりを伸ばします。伸ばしたら手すりを垂れ下がるようにして、そのままいったん保持してください。

⚠ 注意。

手すりを伸ばすと、手すりの側面から黄色のロックピンが2カ所確認できます。


- 5、他の手すり、中さんも手順1～4を繰り返してください。
- 6、手順4の手すりの端の黄色いカバーを押し込むようにして反対側のフレームの回転アンカーに取り付けると、ロックされます。
- 7、他の3本の手すり、中さんについても、手順6を行ってください。(図1.7)の状態になります。
- 8、本体を折りたたむ(格納する)まで、この状態を保ってください。



2,開閉式作業床の高さを設定する


作業床の高さを決めます。

次の手順(開閉式作業床の取付)は、作業の高さに応じて変わります。あらかじめ、高さを決めてから組立ててください。

 **警告** 開閉式作業床は常に高さを下げる前に必ず取り外してください。



強制

 **警告** 開閉式作業床の高さを変更する場合は、高さを変えるたびに開閉式作業床を必ず取り外し、踏ざん3の高



強制

さが1.00メートルになるまで本体の高さを下げた後、再度必要な高さまで組立てを行ってください。

- 1、開閉式作業床の高さを1.00メートルにするときは、25ページの手順に従ってください。
- 2、開閉式作業床の高さを1.25メートルにするときは、25ページの手順に従ってください。
- 3、開閉式作業床の高さを1.50メートルにするときは、26ページの手順に従ってください。
- 4、開閉式作業床の高さを1.75メートルにするときは、27ページの手順に従ってください。
- 5、開閉式作業床の高さを2.00メートルにするときは、28ページの手順に従ってください。

3,開閉式作業床の取付

3 踏ざん

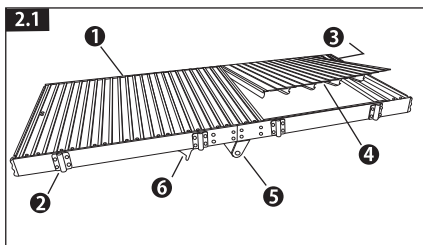
常にこの位置に開閉式作業床を載せる
作業床高さ約1.00m

警告 開閉式作業床は常に踏ざん3に取付けてください。



強制

1、折りたたまれた開閉式作業床を開いてください。まっすぐな状態になれば自動的にロックされますので、ロックされていることを確認してください。(図2.1を参照)



- ① 開閉式作業床を持ち上げる時はサイドフレーム(側板)を持つこと
- ② 巾木取付ブラケット ③ 設置位置誘導ブラケット
- ④ 開閉式扉 ⑤ ヒンジ ⑥ 解除レバー

2、図2.1と図2.2に示すように、開閉式作業床の裏側の四隅にブラケットが装着されていることを確認してください。

また踏ざん3内側に開閉式作業床を正しい位置に取付けるためのブラケットガイドがついていることも確認してください。

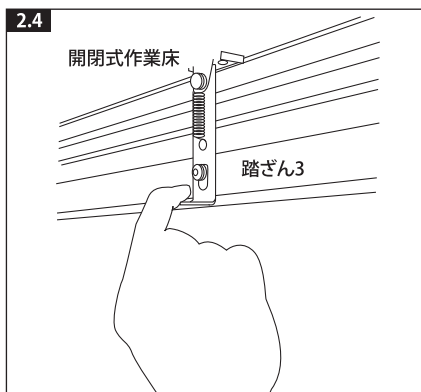
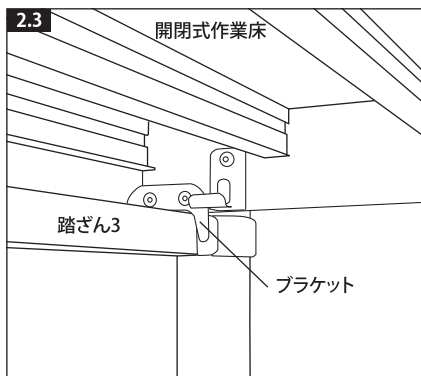
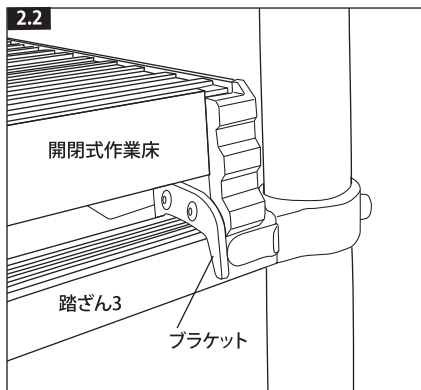
(図2.3を参照)

警告 開閉式作業床を持ち上げる時は、必ずサイドフレーム(側板)を持ってください。



強制

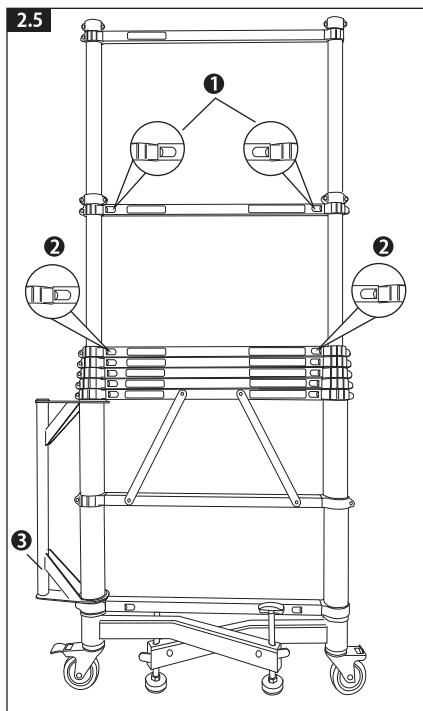
作業床の一部が開閉式になっているため、作業床の下側(底)から手を添えて持ち上げると開閉式扉が開いてしまうことがあり危険です。



3、2人以上で開閉式作業床の四隅のブラケットを踏ざん3のブラケットガイド内側へ添うようにして開閉式作業床を設置してください。

3,開閉式作業床の取付

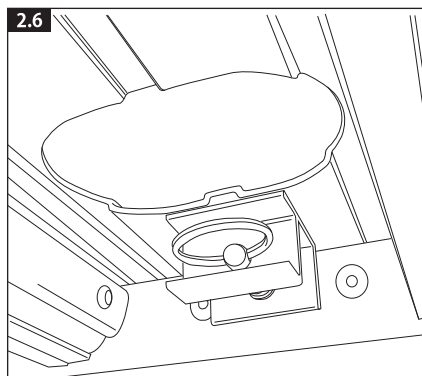
4. 作業床の裏側左右のサイドフレームにバネ式の固定金具が装着されています。タブを引き固定金具の穴を踏ざん3のピンに通して、踏ざん3に開閉式作業床を固定してください。(図2.4を参照)
5. 作業床の高さは1メートルです。(図2.5を参照)



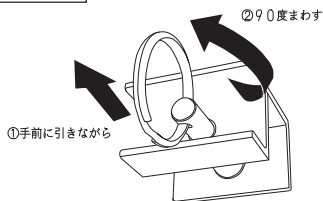
- ① 手すりがロックされています。
- ② 中さんがロックされています。
- ③ ゲートをロック

作業床の開閉方法

作業床の開閉布枠の穴位置の裏側部分に抜け止めが装着されています。穴が開いていることにより、開閉布枠の上からでもロック操作が可能です。ロック操作方法につきましては、図を参照してください。



ロックの解除方法



ロックの方法

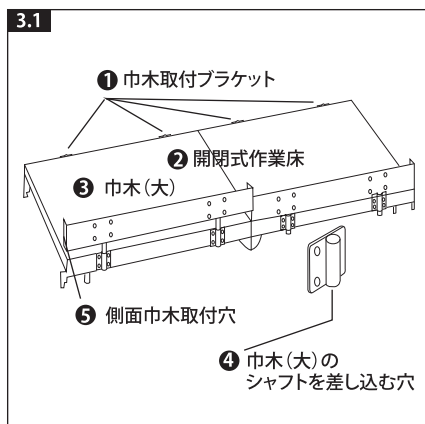


⚠ 警告 開閉式扉は風で閉じることがあります。閉じると指をはさんだり、頭を打つ恐れがあります。

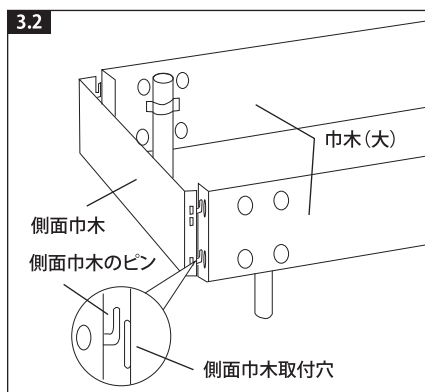
!
強制

4,巾木の取付

- 1、キャリングケースから巾木を取り出してください。巾木(大)のシャフトを開閉式作業床のサイドフレームの差し込み穴に差し込みます。この時に巾木(大)の穴(側面巾木取付用)位置が外側になるように注意してください。(図3.1を参照)



- 2、他の三カ所も、手順1を繰り返します。
- 3、側面巾木を取り、巾木(大)の穴位置に側面巾木のピンを差し込んでください。このとき、巾木(大)を少し持ち上げながら、側面巾木のピンを差し込み、静かに元に戻します。(図3.2を参照)



- 4、反対側も同様に取付けてください。

5,筋交い材の取付

筋交い材は開閉式作業床の下部(底側)四力所に収納された状態で装着されています。(図4.1を参照)

警告 開閉式作業床の高さが1.50メートル以上の場合、必ず筋交い材をブラケットに装着してください。

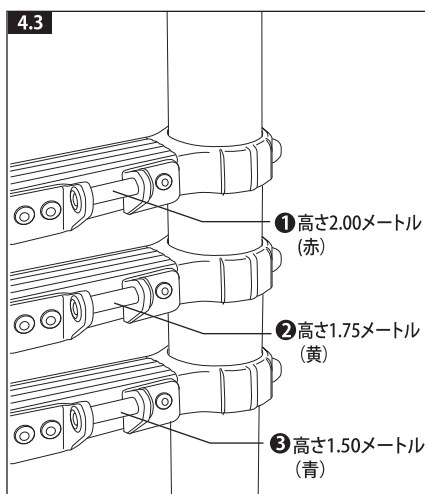
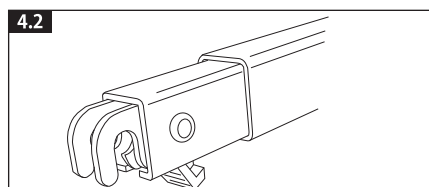
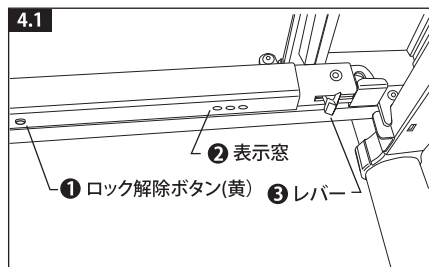


強制

筋交い材の解除ボタンを押しながら、逆の端側の黄色のレバーを引くと収納されていた筋交い材(黄色レバー側)が外れます。

- 筋交い材は、使用する作業床の高さごとに必要な長さが異なります。
- 高さに合わせた長さに伸縮調整が可能です。
- 筋交い材の先端は自動ロック式の金具になっています。(図4.2を参照)

作業床の高さごとに3段階の長さに調整します。またその高さごとの適正な長さに調節されているかを筋交い材の表示窓の色で確認することができます。本体側の踏ざんにも色分けされたブラケットが装着されています。(図4.3を参照)



- ①作業床高さ2.00メートル:
本体側ブラケット、筋交い材表示窓の色は赤です。
- ②作業床高さ1.75メートル:
本体側ブラケット、筋交い材表示窓の色は黄です。
- ③作業床高さ1.50メートル:
本体側ブラケット、筋交い材表示窓の色は青です。

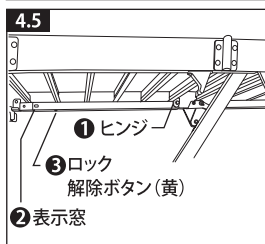
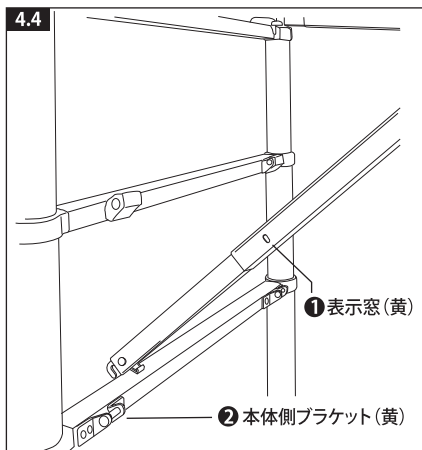
使用高さに作業床が設置されたら、筋交い材の表示窓でその高さに設定されている色が確認されるまで、筋交い材の長さを伸縮調整します。長さを延長するとクリック音とともにロックボタン(小さな丸い黄色い突起)が現れ、そのたびにそれ以上伸びないようにロックされます。必ず本体側のブラケットの色と表示窓の色が同じになるように、適切な長さになるまで調整してください。(一度ロックされた長さから伸ばしたり、縮めたりする場合はロックボタンを押しながら伸縮させてください。)

5,筋交い材の取付

●図4.4と図4.5が表す例:

作業床高さ1.75メートルの場合

高さ1.75メートルの場合、筋交い材の表示窓と本体側ブラケットは黄色になっています。常に筋交い材の表示窓と本体側ブラケットは同色になります。しっかりと黄色のブラケットに筋交い材の先端のロック金具を押し込み、ロックしていることを確認してください。他の3本の筋交い材もこの手順を繰り返してください。



●筋交い材の取り外し

本体側ブラケットから筋交い材を取り外すには、筋交い材の先端の黄色のレバーを押しながら、ブラケットから持ち上げます。筋交い材の下側のロックボタン(丸い小さな黄色の突起)を押しながら筋交い材を収納します。この作業は、筋交い材がどのくらい伸ばされているかによって繰り返すことが必要になります。収納位置に筋交い材を戻し、筋交い材の解除ボタンを押しながら内側へ一旦スライドさせた後、筋交い材の先端部の黄色のレバーを引きロック金具を収納位置のブラケットにロックさせます。(4.筋交い材の取付の逆手順になります。)他の筋交いについても、この手順を繰り返してください。

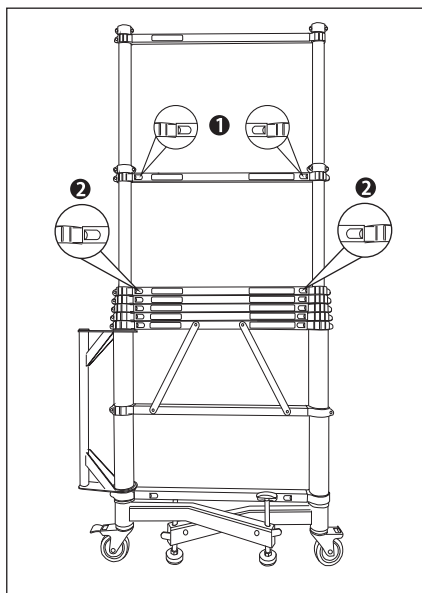
組立方法(作業床高さ1.00 又は1.25メートル)

●作業床高さ1.00メートルの組立

3 踏ざん

常にこの位置に開閉式作業床を載せる
作業床高さ約1.00m

- 1, 17~18ページに記載されているように手すりを組立てる。(下の図を参照)
- 2, 19~21ページに記載されているように踏ざん3に作業床を取り付けます。
- 3, 22ページに記載されているように巾木を取付けます。
- 4, 13ページに記載されているように、アウトリガーを展開します。



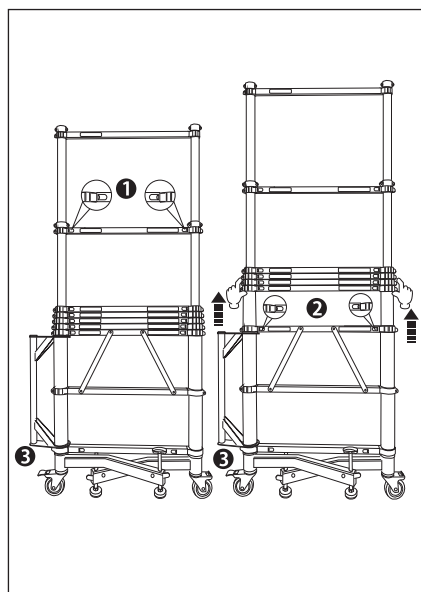
- ① 手すりがロックされています。
- ② 中さんがロックされています。

●作業床高さ1.25メートルの組立

6 踏ざん

この踏ざんを上げる
作業床高さ約1.25m

- 1, 17~18ページに記載されているように手すりを組立てる。(下の図を参照)
- 2, 踏ざん9に足を置き、踏ざん6を持ち上げます。踏ざん7がロックされます。
- 3, 19~21ページに記載されているように踏ざん3に作業床を取り付けます。
- 4, 22ページに記載されているように巾木を取付けます。
- 5, 13ページに記載されているように、アウトリガーを展開します。



- ① 手すりがロックされています。
- ② 中さんがロックされています。
- ③ ゲートをロック

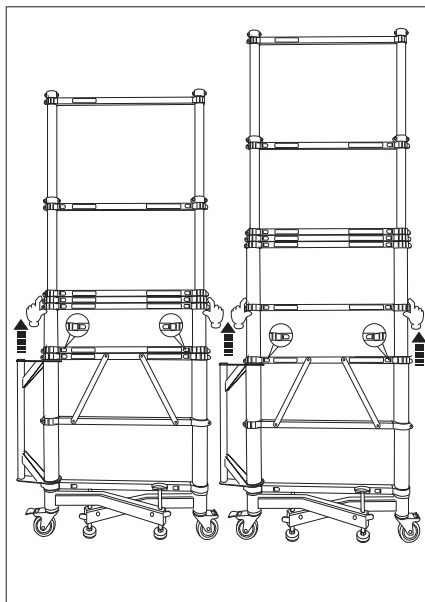
組立方法(作業床高さ1.50メートル)

●作業床高さ1.50メートルの組立

5 踏ざん

この踏ざんを上げてから
6の踏ざんを上げる
作業床高さ約1.50m

- 17～18ページに記載されているように手すりを組立てる。(右の図を参照)
- 左側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん6がロックされるまで、踏ざん5を持ち上げる。
- 右側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん6がロックされるまで、踏ざん5を持ち上げる。
- 右側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん7がロックされるまで、踏ざん6を持ち上げる。
- 左側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん7がロックされるまで、踏ざん6を持ち上げる。
- 19～21ページに記載されているように踏ざん3に作業床を取り付けます。
- 筋交い材を取付けます。取付は23～25ページに記載されているので参照ください。筋交い材の表示窓に青色が表示されるまで、筋交い材を伸縮してください。必ず青色が表示され、筋交い材がその長さでロックされていることを確認してください。
- 本体側の青色ブラケットに筋交い材の先端部のロック金具を押し込むようにしてロックしてください。
- 他の3カ所の筋交い材についても手順(7)と(8)を繰り返してください。
- 22ページに記載されているように中木を取付けます。
- 13ページに記載されているように、アウトリガーを展開します。



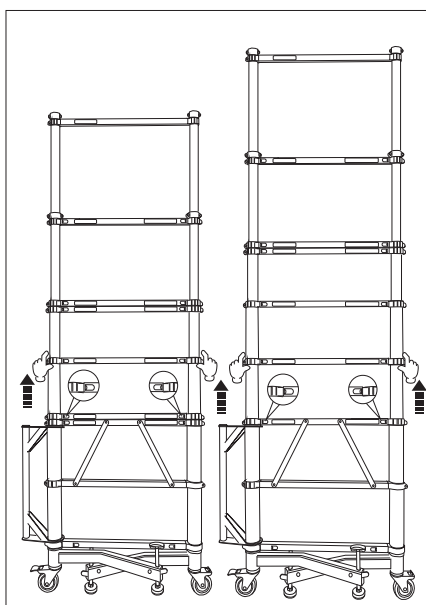
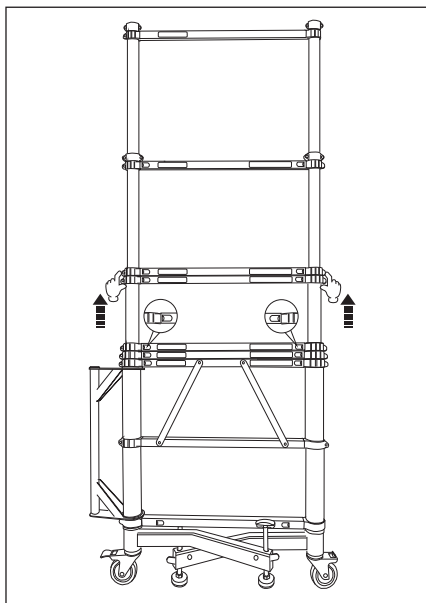
組立方法 (作業床高さ1.75メートル)

●作業床高さ1.75メートルの組立

4 踏ざん

この踏ざんを上げてから
5・6の踏ざんを上げる
作業床高さ約1.75m

- 17～18ページに記載されているように手すりを組立てる。(右の図を参照)
- 左側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん5がロックされるまで、踏ざん4を持ち上げる。
- 右側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん5がロックされるまで、踏ざん4を持ち上げる。
- 右側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん6がロックされるまで、踏ざん5を持ち上げる。
- 左側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん6がロックされるまで、踏ざん5を持ち上げる。
- 左側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん7がロックされるまで、踏ざん6を持ち上げる。
- 右側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん7がロックされるまで、踏ざん6を持ち上げる。
- 19～21ページに記載されているように踏ざん3に作業床を取り付けます。
- 筋交い材を取付けます。取付は23～25ページに記載されているので参照ください。
- 筋交い材の表示窓に黄色が表示されるまで、筋交い材を伸縮してください。必ず黄色が表示され、筋交い材がその長さでロックされていることを確認してください。
- 本体側の黄色ブラケットに筋交い材の先端部のロック金具を押し込むようにしてロックしてください。
- 他の3本の筋交い材についてもステップ(10)と(11)を繰り返してください。
- 22ページに記載されているように中木を取付けます。
- 13ページに記載されているように、アウトリガーを展開します。



組立方法(作業床高さ2.00メートル)

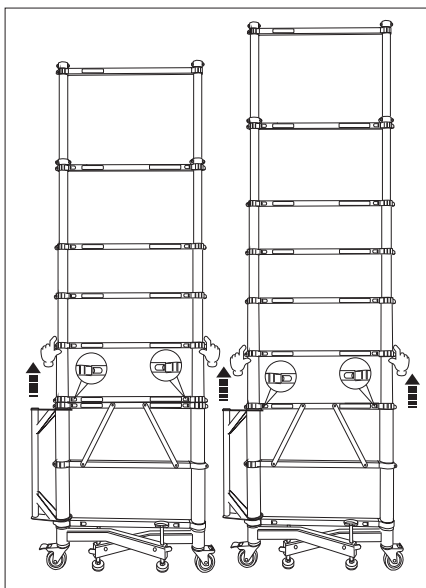
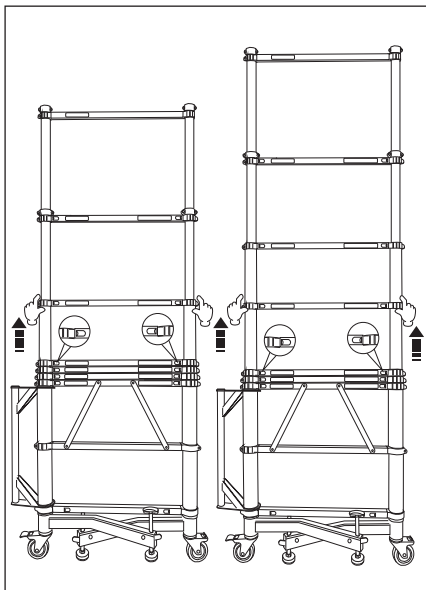
●作業床高さ2.00メートルの組立

7 踏ざん

3・4・5・6の踏ざん
を伸ばす
作業床高さ約2.00m

- 17～18ページに記載されているように手すりを組立てる。(右の図を参照)
- 2、左側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん4がロックされるまで、踏ざん3を持ち上げる。
- 3、右側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん4がロックされるまで、踏ざん3を持ち上げる。
- 4、右側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん5がロックされるまで、踏ざん4を持ち上げる。
- 5、左側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん5がロックされるまで、踏ざん4を持ち上げる。
- 6、左側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん6がロックされるまで、踏ざん5を持ち上げる。
- 7、右側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん6がロックされるまで、踏ざん5を持ち上げる。
- 8、右側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん7がロックされるまで、踏ざん6を持ち上げる。
- 9、左側フレームの踏ざん9に足を置き、踏ざん7がロックされるまで、踏ざん6を持ち上げる。
- 10、19～21ページに記載されているように踏ざん3に作業床を取り付けます。
- 11、筋交い材を取付けます。取付は22～25ページに記載されているので参照ください。
- 12、筋交い材の表示窓に赤色が表示されるまで、筋交い材を伸縮してください。必ず赤色が表示され、筋交い材がその長さでロックされていることを確認してください。
- 13、本体側の赤色ブラケットに筋交い材の先端部のロック金具を押し込むようにしてロックしてください。
- 14、他の3本の筋交い材についてもステップ(10)と(11)を繰り返してください。
- 15、22ページに記載されているように巾木を取付けます。

16、13ページに記載されているように、アウトリガーを展開します。



6,タワーの格納(折りたたむ)

⚠ 警告 本体を折りたたむ前に踏ざん3から必ず作業床を取り外してください。



強制

- 1、作業床を取り付けるために使用している各ツールやアイテムを取り外してください。
- 2、作業床から巾木を取り外します。
- 3、23ページに記載されているように、作業床の下の4本の筋交い材を収納してください。
- 4、踏ざん3の作業床を固定している2つのばね式の固定金具をゆるめて外してください。
- 5、慎重に作業床を本体から取り外し、本体から離れた安全な場所に置いてください。

⚠ 警告 本体を折りたたむ時は、常に踏ざん7(踏ざんラベルの数字が大きい順)からロック機構を解除し格納してください。



強制

赤と黄色のボタンは、以下のように動きます。

- 踏ざん7のボタンを内側へスライドすることでロックが解除され、踏ざん6から上の部分を下方へ移動(格納)させることができます。
- 踏ざん6のボタンを内側へスライドすることでロックが解除され、踏ざん5から上の部分を下方へ移動(格納)させることができます。
- 踏ざん5のボタンを内側へスライドすることでロックが解除され、踏ざん4から上の部分を下方へ移動(格納)させることができます。
- 踏ざん4のボタンを内側へスライドすることでロックが解除され、踏ざん3から上の部分を下方へ移動(格納)させることができます。

●踏ざん3のボタンを内側へスライドすることでロックが解除され、踏ざん2から上の部分を下方へ移動(格納)させることができます。

●横すり2のボタンを内側へスライドすることでロックが解除され、横すり1から上の部分を下方へ移動(格納)させることができます。

⚠ 警告 同時に同じ踏ざんの左右にある2つの伸縮ロックボタンをスライドさせてロックを解除しないでください。



禁止

⚠ 警告 踏ざんの上に手や指を置かないでください。上から降りてきた踏ざんで指をはさむ恐れがあります。



禁止

6,タワーの格納(折りたたむ)

●以下の手順は、作業床の高さを2メートルに設定した本体を格納する場合の例です。

この手順については、他の高さに設定した本体を格納する場合にも適用されます。

手順1

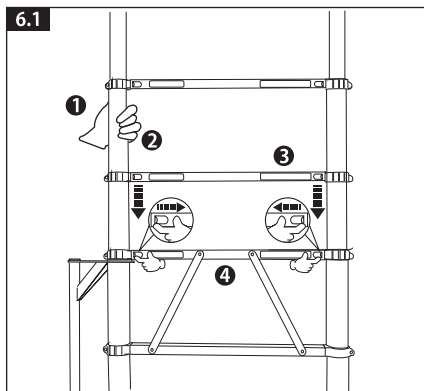
(a)片手で左側のフレームを持ち、踏ざん6より上部分の形状を保った状態で踏ざん一段分を格納する準備をします。

(図6.1を参照してください。)

(b)踏ざん7の内側に向かって右側のボタンを押しながらスライドさせて、ボタンを離します。

(c)踏ざん6より上部分の形状を保ちながら、次に踏ざん7の左側のボタンを内側に向かって押しながらスライドさせてボタンを離します。そして慎重に踏ざん6を踏ざん7の方向へ格納します。

(d)右側フレームも上記(a)~(b)の手順を繰り返します。



- ① 左手 ② 支柱を握って踏ざん5から上方を支える
- ③ 踏ざん6が下方へ移動
- ④ 伸縮ロックボタンを押しながら中央側へスライド

手順2

踏ざん5を格納するために手順1と同じ要領で、踏ざん6のボタンを離してください。

手順3

踏ざん4を格納するために手順1と同じ要領で、踏ざん5のボタンを離してください。

手順4

踏ざん3を格納するために手順1と同じ要領で、踏ざん4のボタンを離してください。

手順5

手すりを『手すりの取付(18ページ)』の逆手順で収納します。

手順6

横手すり2を格納するために手順1と同じ要領で、踏ざん3のボタンを離してください。

手順7

ここからは「横手すり1・2の組立(17ページ)」の逆手順になります。

(a)片手で左側のフレームを持ち、横手すり1を保った状態で踏ざん一段分を格納する準備をします。

(b)横手すり2の右側のボタンを内側に向かって押しながらスライドさせて、ボタンを離します。

(c)横手すり1を押さえながら、横手すり2の左側のボタンを内側に向かって押しながらスライドさせてボタンを離します。そして慎重に横手すり1を横手すり2へ格納します。

(d)右側フレームも上記(a)~(c)の手順を繰り返します。サイドフレームが全て格納されました。

手順8

ゲートの中央にある赤色のゲートロックボタンを上から押し込むとロックが解除され折りたたむことが可能になりますので、ゲートを折りたたんでください。

手順9

『1,組立』の逆手順で付属品等を本体へ収納します。

使用後のお手入れと保管のしかた

1. お手入れのしかた

足場にとって泥・泥水・セメント・石炭・海水は大敵です。いつもきれいにしておいてください。

〈掃除のしかた〉

1. 汚れは、濡れぞうきんなどできれいに拭き取ってください。
2. 汚れが著しい場合は、水洗いした後、乾いた布で拭いてください。
3. 油系の汚れは、クリーナーや洗剤で落とした後、クリーナーや洗剤が残らないように、きれいに拭き取ってください。
4. 研磨剤や化学溶剤を使用しないでください。
5. 定期的にきれいな柔らかいブラシ毛や湿らせた布で拭いて下さい。時折、シリコンスプレーを噴霧することをお勧めします。
6. キャスターは、濡れたスポンジを用いて洗浄し、その後乾燥させてください。

2. 保管のしかた

1. 雨や直射日光の当たらない、風通しの良い乾燥した場所を選んで保管してください。
2. 足場が濡れているときは、十分に乾燥させてから保管してください。

⚠ 注意

- 保管中は、本製品の上に物を置かないでください。変形の原因になります。
- 農薬やセメント・石灰の近くに本製品を置きますと、化学反応を起こして腐食の原因になりますので、絶対に置かないでください。

3. 廃棄方法

製品を廃棄する場合は各地方自治体にお問い合わせください。

「故障かな?」と思ったら(不調診断)

〈現象〉 ●使ったときにグラグラする。

点検する箇所	処置のしかた
溶接部に割れはありませんか。	ある場合は、使わないで廃棄してください。

〈現象〉 ●大きくガタガタする。

点検する箇所	処置のしかた
全体に大きく曲がりやねじれがありませんか。	ある場合は、使わないで廃棄してください。
支柱や踏ざんに曲がりやへコミなどの変形はありませんか。	ある場合は、使わないで廃棄してください。

〈現象〉 ●組立ができない。 ●作業床が開閉しない。

点検する箇所	処置のしかた
フックに曲がりや変形はありませんか。	ある場合は、使わないで廃棄してください。
ジョイント材や支柱に曲がりや変形はありませんか。	ある場合は、使わないで廃棄してください。
開閉床や蝶番に曲がりや変形はありませんか。	ある場合は、使わないで廃棄してください。

⚠ 警告



禁止

製品に異常があった場合、自分の判断で、手直しや補修は絶対にしないでください。一度変形した本体や金具は、いちじるしく強度が落ちており、手直ししても本体や金具の破損が起こり、転倒や転落による人身事故の原因になります。

ピカ コーポレイション

〒577-0013 大阪府東大阪市長田中4-4-10

ナビダイヤル 0570-064065

(土日・祝祭日を除く9:00~17:00まで)

■ホームページアドレス <https://www.pica-corp.jp>

P22.10

※この取扱説明書の無断転用を禁じます。

736450101542